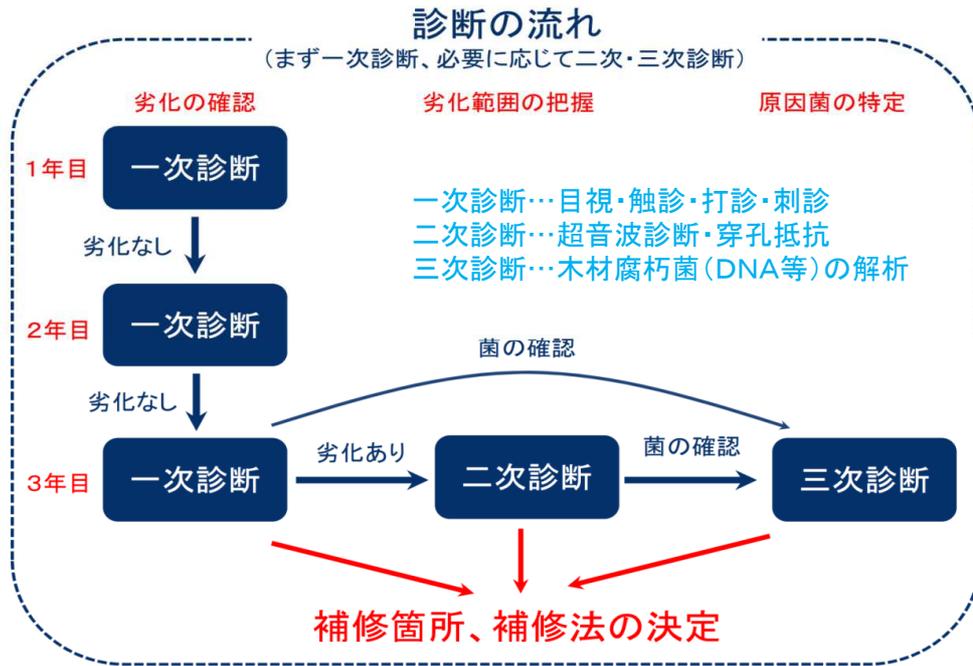


## 技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	安全 防災 環境 コスト ICT <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">品質</span> <span style="color: red;">（該当する分類に○を付けてください）</span>		
技術名称	木製構造物等の劣化及び腐朽診断システム	担当部署	福岡事務所
NETIS登録番号		担当者	北村健一郎
社名等	株式会社アリモト工業	電話番号	092-292-2070
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>1990年代より、環境と調和した素材として、木材(国産材・外材)が多用されるようになりました。しかし、木材の耐久性や劣化等に対する情報が不備でありました。さらに近年、公共施設の長寿命化も叫ばれており、ますます木材という素材に対する科学的な情報の必要性が高まっております。以上のような問題を解決するために、日本木材保存協会では、木材劣化診断士を養成し、木製外構材を始め診断技術の向上と科学的測定機器の導入を図っております。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>(社)日本木材保存協会では、木材劣化診断士の養成と同時に「木製外構材のメンテナンスマニュアル 改訂版」を発行しております。それには、木材の生物劣化(腐朽と蟻害)に対する診断においては、木材劣化診断士及びシロアリ防除士による調査・診断のもとに、報告書の作成を行っております。</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>木材の劣化の早期検知技術、劣化防止技術、補修技術、メンテナンス方法の選択等に寄与し、木製構造物等の長寿命化や改修の判断基準となりうる。木材劣化診断士は、修理や補修及び改修方法に関する助言も行います。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>一次診断 ……木材劣化診断士による目視・打音・触診による診査。                  二次診断 穿孔抵抗測定機…木材厚片側:30cm(両側で60cm)まで測定可能。                  二次診断 超音波測定器…木材長さ4mまで測定可能。</p> <p>5. 活用実績</p> <p>国の機関 0 件（九州 0件、九州以外 0件）                  自治体 12 件（九州 10件、九州以外 2件）                  民間 0 件（九州 0件、九州以外 0件）</p>		

6. 写真・図・表



### 超音波伝播時間測定機器(シルバテスト)



木材中の密な箇所を伝播する超音波の特性を活かし  
伝播時間により劣化度を予測する調査方法。  
受発信の各端子を測定物両端にあて、超音波の伝播時間の測定を行い  
健全部との比較により内部劣化の状態を予測するものである。

### 穿孔抵抗測定機器(レジストグラフ)



測定部位の健全性を穿孔抵抗で便宜的に検査するもの  
キリの穿孔抵抗により木材中の密度状態を抵抗値として測定し劣化度を予測する測定法。  
直径2mm程度のキリを測定箇所内部へ一定速度で侵入し抵抗値の測定を行う。